

地球の鼓動が聞こえる



中東のイラクで反体制デモの最中に倒れた息子を抱きかかえる女性を写したサムエル・アランド氏の作品が選ばれました。

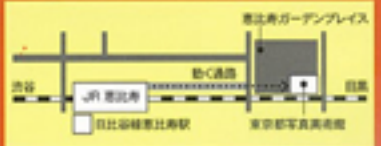


WORLD PRESS PHOTO 12

世界報道写真展

2012 6.9sat ▶ 8.5sun 東京都写真美術館 地下1階展示室

開館時間：10:00～18:00(木、金は20:00まで) 入館は閉館の30分前まで
休館日：毎週月曜日(7月16日開館、翌17日閉館)
観覧料：一般 700(560)円 / 学生 600(480)円 / 中高生・65歳以上 400(320)円
小学生以下・第3木曜日は65歳以上無料、お身体に障害をお持ちの方とその介護者は無料(※)は20名以上の団体および東京都写真美術館の会員割引料金
チケットはセブンイレブン(店内マルチコピー機「セブンチケット」)で「セブンコード016-884」でお買い求めいただけます。東京都写真美術館は当日券のみ販売。
主催：世界報道写真展実行委員会 共催：東京都写真美術館 後援：オランダ王国大使館、公益財団法人日本写真協会、公益財団法人日本写真家協会
協賛：キヤノンマーケティングジャパン株式会社 お問い合わせ：東京都写真美術館 TEL.03-3280-0099



http://www.asahi.com/event/wpph/

世界報道写真展

WORLD PRESS PHOTO 12

2011年一。この年は多くの人々にとって、「東日本大震災」による惨事とともに記憶され続けることになるでしょう。大津波による被災とともに、福島第一原発の事故はとりわけ大きな禍根を残し、多数の住民や避難者が人生の岐路に立たされています。今年で55回目を迎える「世界報道写真展」は、124の国と地域、5247人の応募の中から厳選された報道写真、約170点をご紹介します。震災の爪痕を撮影した7名の写真家による作品もあります。大賞には、中東のイエメンで反体制デモの最中に倒れた息子を抱きかかえる女性を写したサムエル・アランド氏の作品が選ばれました。中東、北アフリカ各国での民衆運動やノルウェーでの大量殺人事件、密猟によって角を狩られるサイなど、今年の展示作品も貴重な記録であると同時に見る者に強く訴える作品ばかりです。



「アート&エンタテインメント」の部 第写真1位
ロブ・ホルンストロム
オランダ、インスティテュート・フォー・アーティスト・マネジメント



「現代社会の問題」の部 第写真1位
フレント・スタート
南アフリカ、ゲタティエ・メジスによるボルタージュから
キエフ・ポスト/サンデー・タイムズマガジンへ



「日常生活」の部 第写真1位
ダニール・サゴジ
ロシア・ヘルツェンスタイン、ロイター通信



「日常生活」の部 第写真1位
アレハンドロ・キルチコフ
アルゼンチン



「一般ニュース」の部 第写真1位
アレックス・マヨーリ
イタリア、マクナム・フォトからニュースウィーク誌へ



「自然」の部 第写真1位
ジェニー・E・ロス
アメリカ



「ニュースの中の人々」の部 第写真2位
トマッシュ・ラザル
ポーランド



「スポーツニュース」の部 第写真1位
ユリ・コズイレフ
ロシア、ノール・イメージズからタイム誌へ



「スポーツニュース」の部 第写真2位
ニコラス・ハマス・スレーム
スウェーデン、アフンブララット紙向け

第5回 写美フォトドキュメンタリー・ワークショップ (主催=東京都写真美術館/朝日新聞社)

関連イベント

7/14(土)～16(月・祝)3日間 東京都写真美術館1階アトリエ 事前申込制、有料、詳細は www.syabi.com
フォトジャーナリズム、フォトドキュメンタリーの現場を学べる3日間連続のプログラム。
講師：Q、サカマキ(写真家、アメリカ在住)、外山俊樹(AERA フォトディレクター)
そのほかにも、トークイベントなど関連イベントを予定しています。
詳しくは「世界報道写真展2012」ホームページ <http://www.asahi.com/event/wpph/>より「新着情報」をご確認ください。内容が決まり次第、告知します。